

## (2) 死 亡

### ア 死亡数及び死亡率

死亡数は62,565人で、前年の61,269人より1,296人増加した。

死亡率は人口千人に対し8.7で、前年の8.6を0.1ポイント上回った。全国（10.3）より1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－6、図－5）

表－6 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7

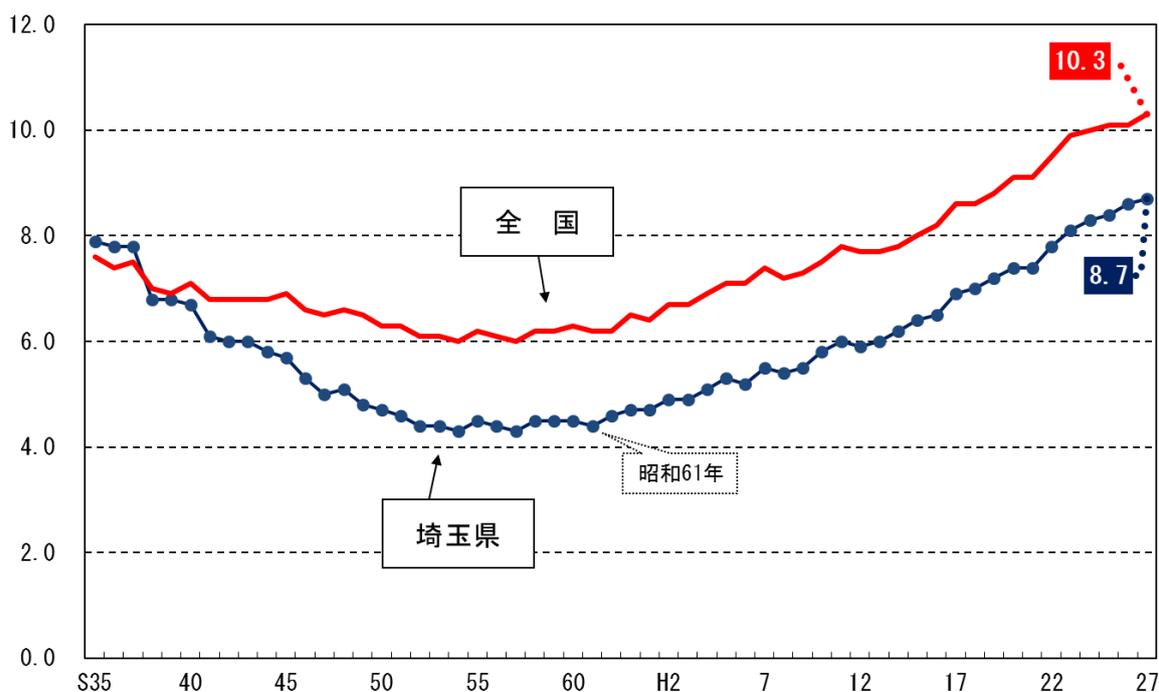
  

		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	36 799	40 486	48 095	55 487	60 264	61 269	62 565
	全 国	922 139	961 653	1 083 796	1 197 012	1 268 432	1 273 004	1 290 444
率	埼玉県	5.5	5.9	6.9	7.8	8.4	8.6	8.7
	全 国	7.4	7.7	8.6	9.5	10.1	10.1	10.3

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



## イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位となっていた。しかし平成 26 年に東京都が第 3 位、愛知県が第 4 位となり、埼玉県は第 5 位となった。平成 27 年は愛知県を 0.1 ポイント上回り、第 4 位であった。(表-7)

※ 平成 2 年から昨年までの概況（平成 27 年概数を含む）において、昭和 60 年の順位が低率順で第 1 位である旨の記載がされていたが、第 2 位の誤りである。

表-7 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.0		全 国	10.1		全 国	10.1		全 国	10.3	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.0	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.6	1	秋 田	14.5	1
	高 知	12.8	2	島 根	13.6	2	高 知	13.8	2	高 知	13.6	2	島 根	13.9	2
	島 根	12.8	3	高 知	13.5	3	島 根	13.7	3	島 根	13.5	3	高 知	13.8	3
	山 口	12.3	4	山 形	12.9	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	13.4	4
	山 形	12.1	5	青 森	12.8	5	山 口	13.1	5	和 歌 山	13.0	5	青 森	13.1	5
	和 歌 山	12.1	6	山 口	12.8	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.0	6	徳 島	13.1	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	12.7	7	徳 島	13.1	7	青 森	12.9	7	和 歌 山	13.1	7
	徳 島	11.9	8	和 歌 山	12.7	8	青 森	12.8	8	鹿 児 島	12.9	8	山 口	13.1	8
	岩 手	11.9	9	鹿 児 島	12.6	9	鳥 取	12.7	9	山 口	12.8	9	鹿 児 島	13.0	9
鳥 取	11.9	10	岩 手	12.4	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.7	10	岩 手	12.9	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.6	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.1	1	沖 縄	8.0	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.0	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.3	2	神 奈 川	8.4	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.3	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	東 京	8.5	3
	愛 知	8.1	4	愛 知	8.4	4	東 京	8.5	4	愛 知	8.6	4	埼 玉	8.7	4
	東 京	8.1	5	東 京	8.5	5	愛 知	8.6	5	埼 玉	8.6	5	愛 知	8.8	5

注 1：率は人口千対である。

注 2：順位の算出には、小数点第 2 位以下を考慮。

## ウ 死因

### (ア) 死因順位

平成27年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 18,823人（死亡総数の30.1%）、第2位は心疾患 10,123人（16.2%）、第3位は肺炎 6,384人（10.2%）、第4位は脳血管疾患 5,143人（8.2%）、第5位は老衰 3,294人（5.3%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、悪性新生物（262.9）が2.5ポイント、肺炎（89.2）が1.4ポイント、老衰（46.0）が6.8ポイント、大動脈瘤及び解離（10.1）が0.5ポイント上昇した。一方、心疾患（141.4）が2.3ポイント、脳血管疾患（71.8）が0.4ポイント、不慮の事故（19.6）が1.7ポイント、自殺（18.0）が0.7ポイント、腎不全（15.9）が0.1ポイント、肝疾患（10.9）が0.2ポイント低下した。（表－8）

表－8 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	平成27年			平成26年			平成26年との比較		
	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合
総 数	62 565	873.8	100.0	61 269	857.7	100.0	1 296	16.1	
悪 性 新 生 物	18 823	262.9	30.1	18 599	260.4	30.4	224	2.5	△ 0.3
心 疾 患	10 123	141.4	16.2	10 263	143.7	16.8	△ 140	△ 2.3	△ 0.6
肺 炎	6 384	89.2	10.2	6 275	87.8	10.2	109	1.4	-
脳 血 管 疾 患	5 143	71.8	8.2	5 155	72.2	8.4	△ 12	△ 0.4	△ 0.2
老 衰	3 294	46.0	5.3	2 800	39.2	4.6	494	6.8	0.7
不 慮 の 事 故	1 406	19.6	2.2	1 523	21.3	2.5	△ 117	△ 1.7	△ 0.3
自 殺	1 287	18.0	2.1	1 337	18.7	2.2	△ 50	△ 0.7	△ 0.1
腎 不 全	1 138	15.9	1.8	1 146	16.0	1.9	△ 8	△ 0.1	△ 0.1
肝 疾 患	782	10.9	1.2	791	11.1	1.3	△ 9	△ 0.2	△ 0.1
大動脈瘤及び解離	724	10.1	1.2	683	9.6	1.1	41	0.5	0.1
小 計	49 104	685.8	78.5	48 572	680.0	79.3	532	5.8	△ 0.8
そ の 他	13 461	188.0	21.5	12 697	177.7	20.7	764	10.3	0.8

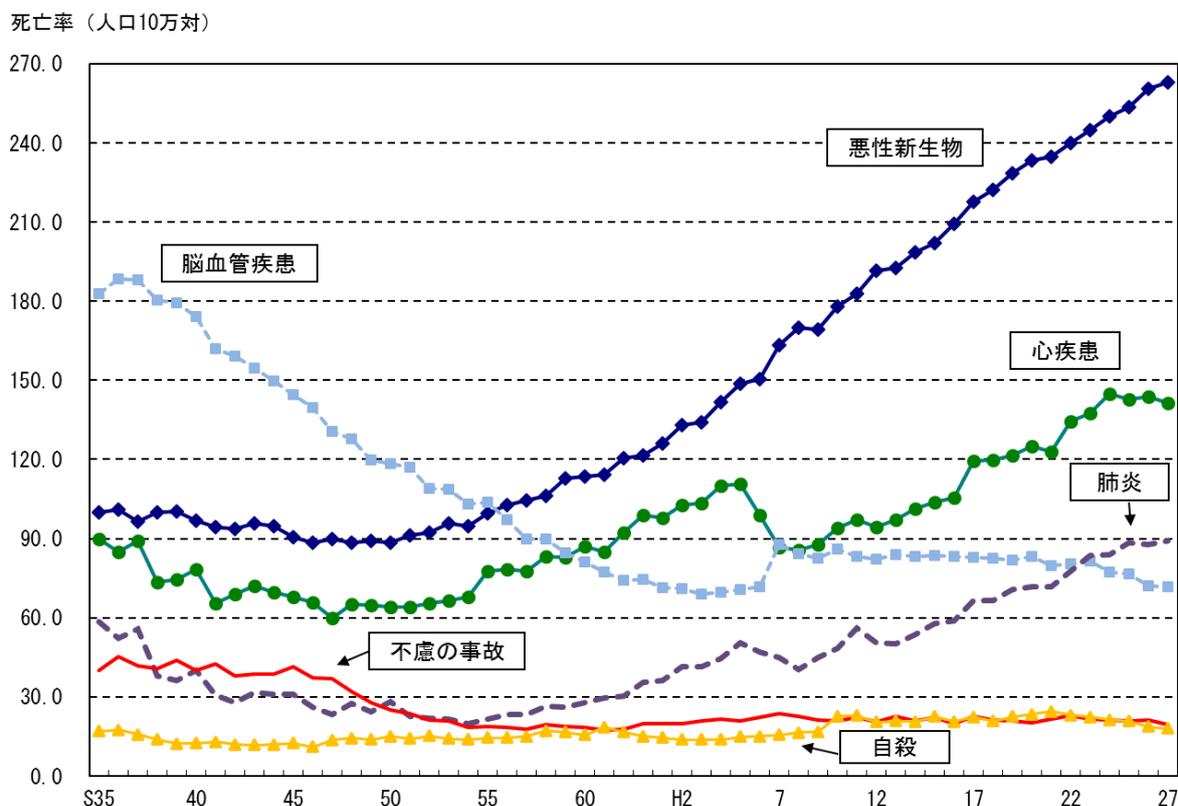
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成27年は262.9となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成27年の死亡総数に占める割合は30.1%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成27年の死亡総数に占める割合は16.2%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成27年の死亡総数に占める割合は8.2%となっている。（表－8、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正による影響

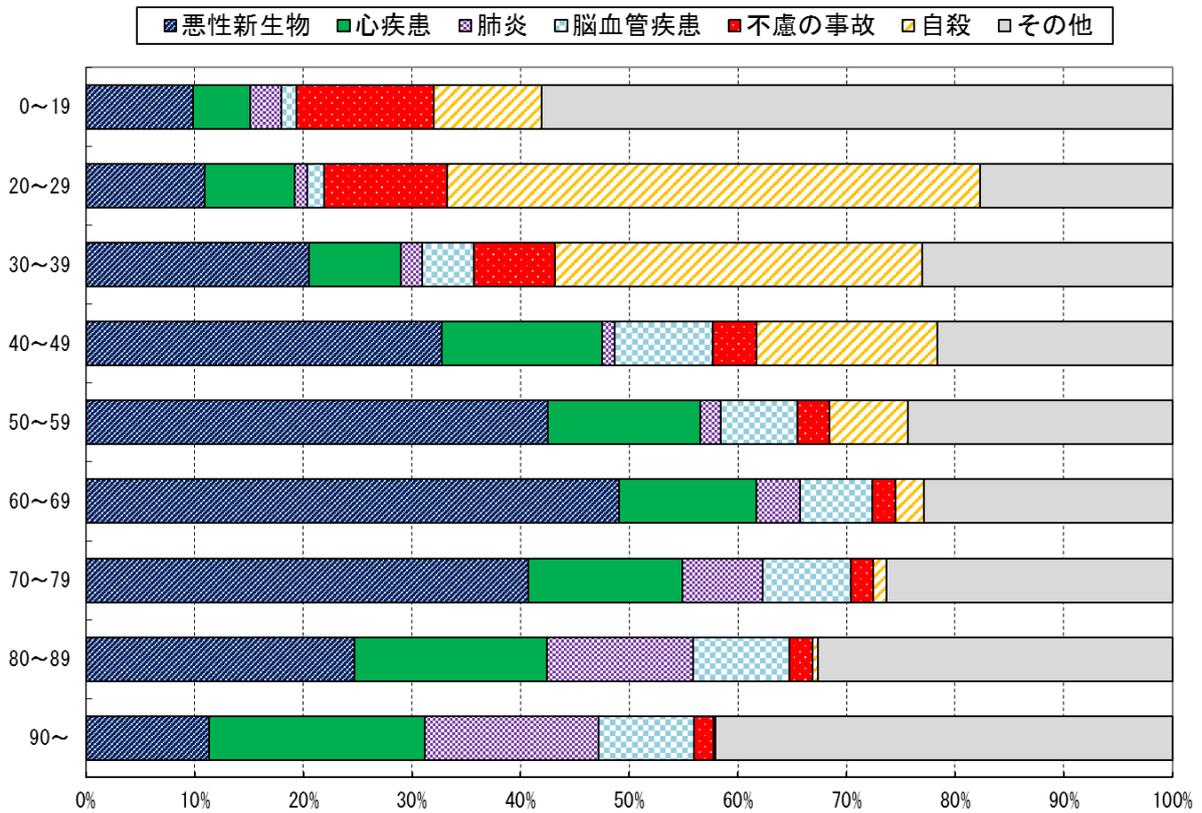
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、19歳以下では不慮の事故、20歳～30歳代では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。(図-7)

図-7 年齢階級別に見た主要死因別割合 (埼玉県)



## (イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は18,823人で、死亡総数の30.1%を占めている。つまり、全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,437人で最も多く、次いで80～89歳が5,292人、60～69歳が3,928人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が49.1%で最も多く、次いで50～59歳が42.5%、70～79歳が40.7%の順となっている。（表－9）

死亡率は人口10万人に対し262.9で、前年より2.5ポイント上昇した。全国は前年より2.0ポイント上昇し295.5である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

（図－8）

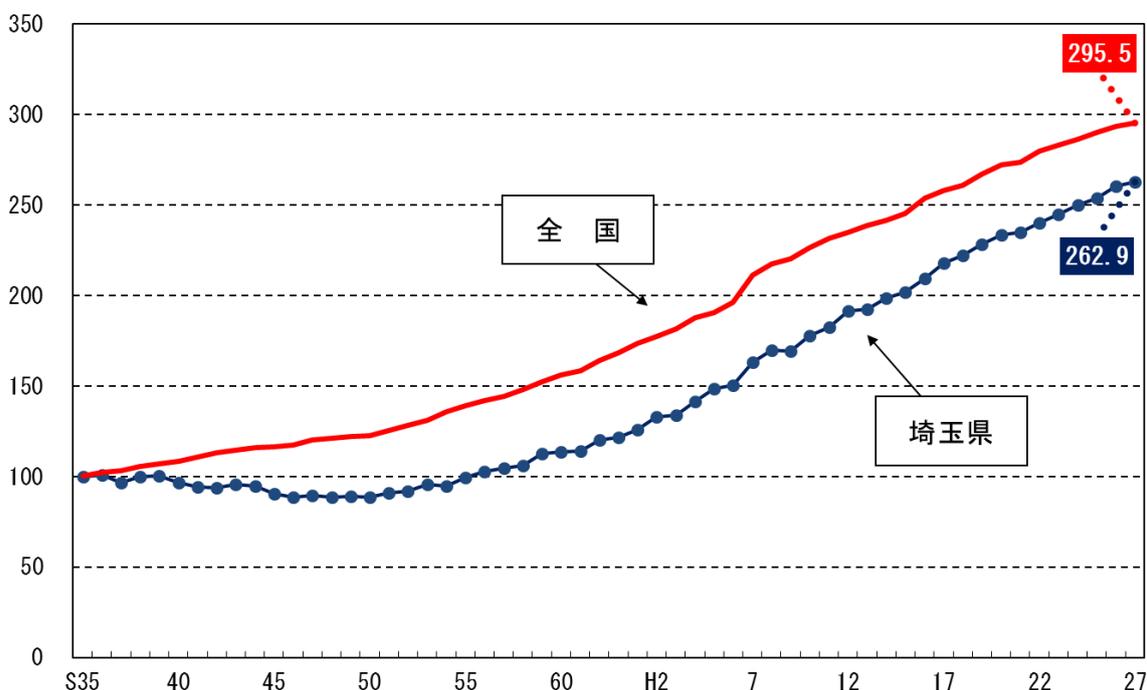
表－9 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
悪性新生物による死亡数	18 823	28	29	107	478	1 148	3 928	6 437	5 292	1 376	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	0.6%	2.5%	6.1%	20.9%	34.2%	28.1%	7.3%	-
死亡総数に占める割合	30.1%	9.9%	10.9%	20.5%	32.7%	42.5%	49.1%	40.7%	24.7%	11.3%	-

埼玉県

図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、平成27年は「気管・気管支及び肺」が3,788人(20.1%)で最も多く、次いで「胃」が2,520人(13.4%)、「大腸」が2,494人(13.2%)の順となっている。(図-9、表-10)

図-9 悪性新生物の部位別割合の推移(埼玉県)

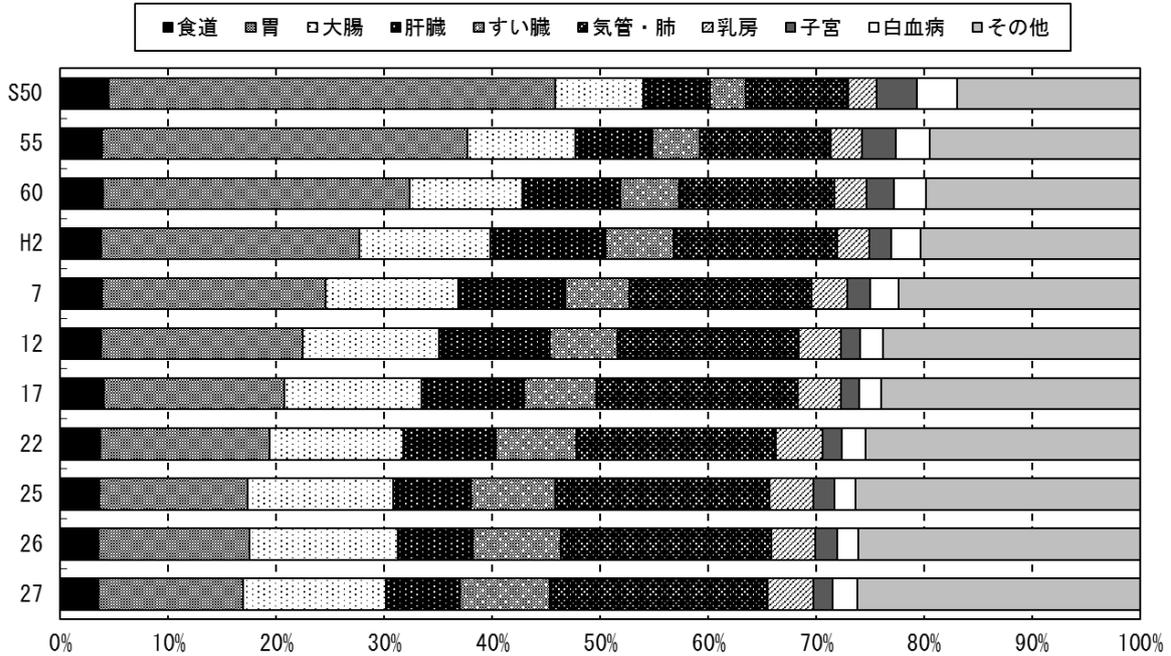


表-10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県														
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27	
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 100	18 599	18 823	
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	652	655	662	
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 487	2 603	2 520	
大腸	...	...	...	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 437	2 549	2 494	
(結腸)	...	...	...	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 681	1 716	1 694	
(直腸)	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	756	833	800	
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 302	1 303	1 294	
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 411	1 513	1 567	
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 593	3 618	3 788	
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	745	760	806	
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	350	376	331	
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	350	365	435	
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 773	4 857	4 926	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.6	3.5	3.5	
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.7	14.0	13.4	
大腸	...	...	...	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.5	13.7	13.2	
(結腸)	...	...	...	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.3	9.2	9.0	
(直腸)	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.5	4.3	
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	7.2	7.0	6.9	
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	7.8	8.1	8.3	
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	19.9	19.5	20.1	
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.1	4.1	4.3	
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.9	2.0	1.8	
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	1.9	2.0	2.3	
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.4	26.1	26.2	

## (ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,123人で、死亡総数の16.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が3,791人で最も多く、90歳以上が2,410人、70～79歳が2,239人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.9%で最も多く、80～89歳が17.7%、40～49歳が14.8%の順となっている。（表－11）

死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にある。しかし、平成27年は前年より2.3ポイント低下し141.4であった。全国は前年より0.5ポイント低下し156.5である。（図－10）

表－11 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
心疾患による死亡数	10 123	15	22	44	216	379	1 007	2 239	3 791	2 410	－
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.2%	0.4%	2.1%	3.7%	10.0%	22.1%	37.5%	23.8%	－
死亡総数に占める割合	16.2%	5.3%	8.3%	8.4%	14.8%	14.0%	12.6%	14.2%	17.7%	19.9%	－

埼玉県

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



## (エ) 肺炎

肺炎による死亡数は6,384人で、死亡総数の10.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,864人で最も多く、90歳以上が1,938人、70～79歳が1,169人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が16.0%で最も多く、80～89歳が13.4%、70～79歳が7.4%の順となっている。(表-12)

死亡率は人口10万人に対し89.2で、前年より1.4ポイント上昇した。全国は前年より1.1ポイント上昇し96.5である。埼玉県及び全国の死亡率は総じて上昇傾向にある。(図-11)

表-12 肺炎による死亡数及び割合 (年齢階級別)

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
肺炎による死亡数	6 384	8	3	10	17	50	325	1 169	2 864	1 938	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	0.8%	5.1%	18.3%	44.9%	30.4%	-
死亡総数に占める割合	10.2%	2.8%	1.1%	1.9%	1.2%	1.9%	4.1%	7.4%	13.4%	16.0%	-

埼玉県

図-11 肺炎による死亡率の年次推移 (埼玉県・全国)

死亡率 (人口10万対)

